

証券コード：6748

SEIWA

創意 ⊕ 革新

モノづくりの原点を見つめ、これから変わるもの変わらぬもの。

2020年12月期

2021年3月5日

決算説明会

皇和電機株式会社

- 1. 当社グループの概要**
- 2. 中期経営方針・戦略と取り組み事例**
- 3. 決算概要と今期の見通し**

1. 当社グループの概要

創業	昭和20年（1945年）10月1日
設立	昭和24年（1949年）1月18日
公開市場	東京証券取引所 第一部
本社所在地	京都府城陽市寺田新池36番地
資本金	36億48百万円
従業員数（2020年12月31日現在）	484名（133名）（ ）内は臨時従業員の年間平均人数



■ 支社・営業所・駐在員事務所 Branches & Sales Offices



■ 連結子会社 Consolidated Subsidiaries



Information System

情報機器事業

- 情報表示システム



Lighting

照明機器事業

- 道路・トンネル照明機器
- 産業用照明機器
- 照明用LEDモジュール製品



Component

コンポーネント事業

- 配線保護機材
- 電磁波環境対策部品



※各事業の詳細は、スライド41ページ以降を参照ください

2. 中期経営方針・戦略と取り組み事例

- **中期経営方針・戦略の振り返り**
- **新中期経営方針・戦略
(2021年12月期～2023年12月期)**
- **2020年12月期取組み事例**

中期経営方針・戦略の振り返り①

SEIWA

2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）

（単位：百万円）

	期初予想値	実績値	増減額	増減率(%)
売上高	23,800	20,390	△3,409	△14.3
情報機器	9,500	6,963	△2,536	△26.7
照明機器	7,700	7,177	△522	△6.8
コンポーネント	5,800	5,340	△459	△7.9
その他	800	909	109	13.6
営業利益	950	1	△948	△99.8
経常利益	900	△14	△914	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	680	213	△466	△68.7
営業利益率	4.0%	0.0%	△4.0PT	—
R O E	6.5%	2.0%	△4.5PT	—

中期経営方針・戦略の振り返り②

SEIWA

2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）

（単位：百万円）

	期初予想値	実績値	増減額	増減率(%)
売上高	23,800	26,091	2,291	9.6
情報機器	9,500	12,132	2,632	27.7
照明機器	7,700	8,124	424	5.5
コンポーネント	6,200	5,249	△950	△15.3
その他	400	585	185	46.4
営業利益	1,000	1,289	289	28.9
経常利益	950	1,275	325	34.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	700	1,105	405	57.9
営業利益率	4.2%	4.9%	0.7PT	—
ROE	6.5%	10.2%	3.8PT	—

中期経営方針・戦略の振り返り③

SEIWA

2020年12月期（2020年4月1日～2020年12月31日）

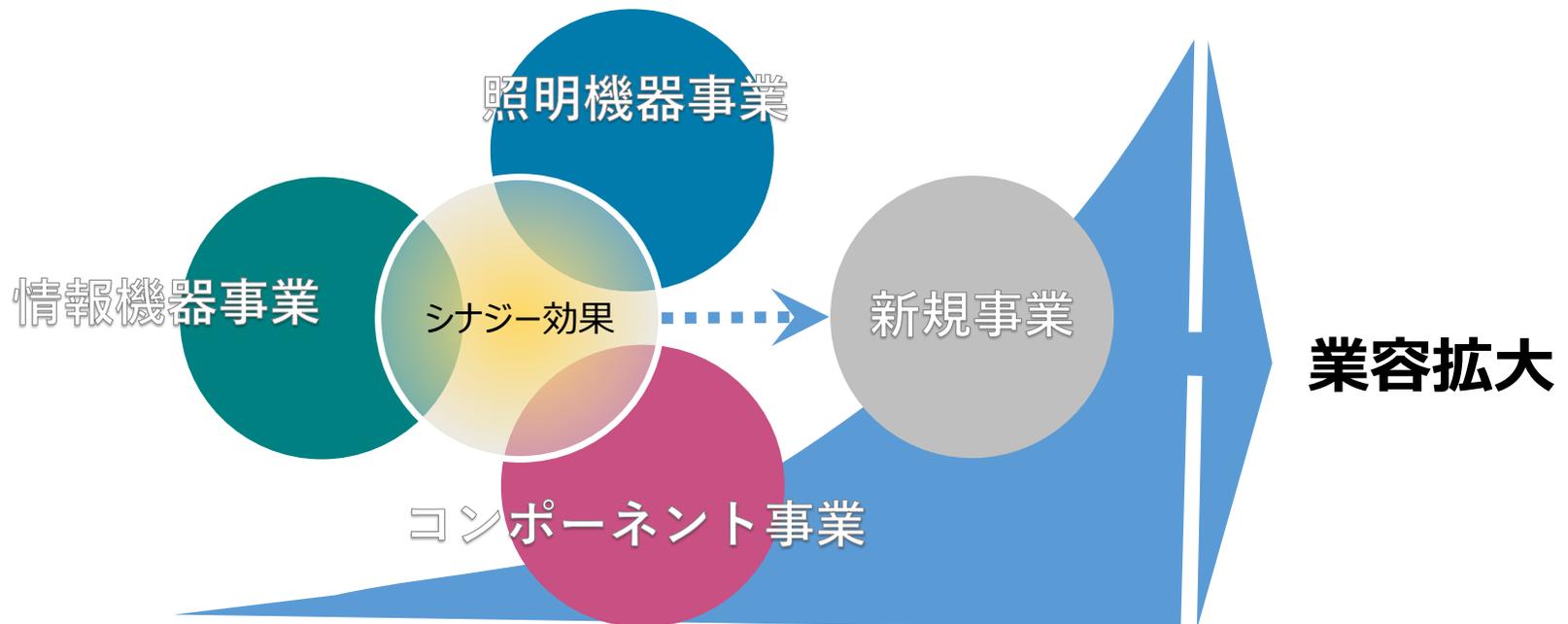
（単位：百万円）

	期初予想値	実績値	増減額	増減率(%)
売上高	17,200	18,297	1,097	6.4
情報機器	7,500	8,082	582	7.8
照明機器	5,500	5,882	382	7.0
コンポーネント	4,000	4,040	40	1.0
その他	200	292	92	46.3
営業利益	300	695	395	131.8
経常利益	270	673	403	149.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	150	612	462	308.3
営業利益率	1.7%	3.8%	2.1PT	—
ROE	1.3%	5.3%	4.0PT	—

**“インテリジェント・プロダクト” を実現し、
高い製造力を実現する。**

産業用照明、道路・トンネル照明をはじめ**幅広い分野**で、
ニーズに対応したLED照明器具とコンポーネント製品の**新製品開発**

独創的な**発想力**と**技術力**を基盤に、さらに**革新的な製品**づくりで**業容拡大**



事業展開方針

1. 品質と技術力の向上と生産構造改革により、低コスト経営の実践と顧客満足を高めて事業収益性を向上させる
2. 独自技術の育成と従来製品群のスマート化を実現し、維持管理時代に向けた省力化・効率化を実現する
3. エンジニアリング力の強化と販売網の再構築により受注領域を拡大する

事業戦略

1. 既存分野 従来製品を中心とした情報提供機器
2. 新規分野 既存情報提供機器を発展させた高付加価値製品を実現した
新規分野への商品展開
3. インテグレーション分野 製品の融合によるシステム化を実現し
事業領域を拡大する

事業展開方針

1. 多機能製品、システム製品を增強し、差別化と高付加価値提供を実現する
2. 新事業領域の拡大により、売上・事業収益を増やす
3. 合理的かつ高品質のものづくりを追及し、顧客満足の上昇と収益体質の強化を図り、
事業収益を増やす
4. 新事業領域の創出による事業拡大
5. 複合機能製品、システム製品へのシフトにより、市場創出と参入による事業拡大

事業戦略

1. 官需照明 公共インフラ分野における道路・トンネル・街路関連と防災セキュリティ関連市場の照明機器
2. 民需照明 新たな製品カテゴリの創出
生産拠点の最適化と生産性の向上
3. モジュール 医療機器・機械装置・特殊環境・インフラ関連市場の開拓と事業拡大
ものづくり改革による収益性の改善
4. 新規事業領域の創出 光応用分野における新技術の獲得
システム製品、多機能製品の増強
照明+ α の実現
5. 海外 OUT-OUT ビジネスを確立し事業収益を確保する

事業展開方針

1. 事業領域としては B to B で且つニッチ市場(ニッチトップ)にハードとソフト、システム展開とエンジニアリング領域(評価技術、暗室ソリューション等)の両輪により事業基盤を強化
2. 既存コア技術の単機能から複合機能への転換を図り新市場領域の創出と参入による事業拡大
3. 材料開発、高機能製品化（付加価値製品）及び新技術の研究、新分野領域への技術力強化
(5G、IoT、スマートグリッド、AI、ロボティクス等)

事業戦略

1. EMC・熱対策部品

材料開発、要素技術開発を加速させ、自動車関連、インフラ関連、医療機器、装置機器等

2. 機構部品・部材

材料開発、複合製品開発を中心に、インフラ関連（通信、機械装置産業）、防災セキュリティ市場（カメラ等）、農業関連等

Information System

情報機器事業

「この先、急カーブ！」という音声で効果的な交通事故防止対策

注意喚起を行いたい範囲に限定して音声が届く指向性スピーカーの開発

6基の指向性スピーカーをカーブの手前に設置し、「この先、急カーブ」という聴覚情報をドライバーに提供



2019年8月から試行を開始し、試行開始前後の速度変化を分析した結果、聴覚情報提供後は車両速度が4%低下し、事故発生なし。

取組み事例② UV-Cソリューション製品の拡充

SEIWA

Lighting

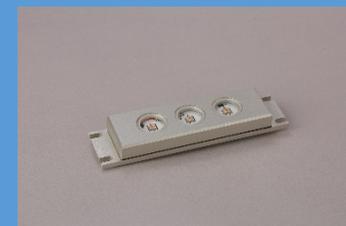
照明機器事業

除菌・衛生関連等、新規市場開拓の取組みを促進させるために、UV-Cソリューション製品のラインアップの充実を図るとともに、UV-LEDにかかる技術開発の促進、製品開発を行いました。

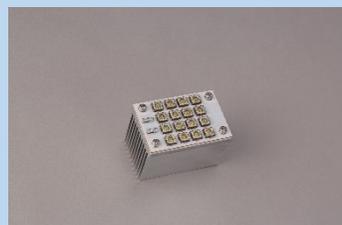
①新製品 空間除菌用



表面除菌用



②開発中の製品 表面除菌用



流水除菌用



③現行販売品 空間および 表面除菌用製品



取組み事例③ ノイズ対策新製品を充実

SEIWA

Component

コンポーネント事業

TOTAL SOLUTION SEIWA

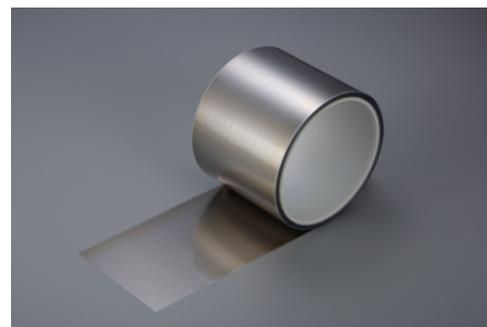
～ここにも、そこにも、星和電機のノイズ対策技術～

交通インフラ
車載
関連市場

医療機器
各種機械装置
関連市場

電力
通信インフラ
関連市場

生活家電
デジタル家電
関連市場



磁界シールドシート「E10NA」



車載機器エミッション試験装置



10m法対応電波暗室
(2021年5月運用開始予定)

Lighting

照明機器事業



 照明設置位置

景観と調和する街路照明を先斗町通の北工区に納入

光源が水銀灯からLEDとなることで、省電力・長寿命が可能

先斗町の店先を彩る提灯を模しており、下から見上げると先斗町の紋である千鳥が3羽並んでいるデザイン

先斗町の夜間景観を損なわないよう、明るさや見え方を工夫



多様な人材や価値観を尊重する「ダイバーシティ経営」を推進

1. 定年年齢を60歳から65歳に引き上げ

- ・再雇用ではなく、定年年齢を65歳へ
- ・誰もが安心して活躍できる会社に前進

2. 時間単位の年次有給休暇制度の導入

- ・年間40時間を1時間単位で取得可能
- ・各従業員の生活スタイルに合った形での休暇制度の実現

モノ作りの原点へ

From the Kyoto to the World

Originality and Innovation

Made by SEIWA

Strict Selection and Integration that Focuses on
Next Generation Products



2. 決算概要と今期の見通し

決算期変更について

SEIWA

2020年12月期（当期）より決算期（事業年度の末日）を3月31日→**12月31日**に変更
※決算期が12月31日以外の連結子会社も変更

変更理由

売上高等の季節要因に伴う業績への影響を緩和し、事業運営の効率化を図る

2020年3月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
2019年4月1日～2020年3月31日	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
2020年12月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	9か月決算
2020年4月1日～2020年12月31日	4～6月	7～9月	10～12月	
2021年12月期～	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
2021年1月1日～2021年12月31日	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月

連結会計年度の業績に関しましては、前期同一期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）との比較により記載しております。

■ 売上高 前年同一期間(2020年3月期第3四半期) より18.6%増加

増加：公共設備関連の道路情報表示システムおよびトンネル照明器具、民間設備関連の産業用照明機器 他

減少：照明用LEDモジュール製品および産業用配線保護機材

■ 利益 前年同一期間(2020年3月期第3四半期) より増加

情報機器事業および照明機器事業は増益、コンポーネント事業は減益で全体として増益

(単位：百万円)

	2020年3月期 第3四半期	2020年12月期	増減	増減率(%)
売上高	15,423	18,297	2,874	18.6
売上総利益	2,785	3,554	768	27.6
販売管費	2,671	2,859	188	7.0
営業利益	114	695	580	506.5
経常利益	122	673	551	451.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	178	612	433	242.9
自己資本当期純利益率(%)	1.7	5.3	3.6	—
総資産経常利益率(%)	0.5	2.4	1.9	—
売上高営業利益率(%)	0.7	3.8	3.1	—

(官需比率)

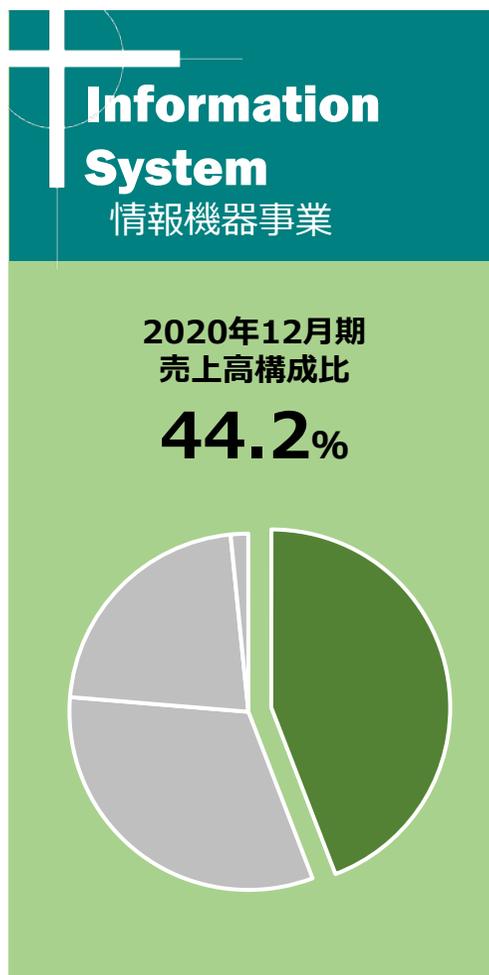
44%

53%

セグメント別の状況 ①情報機器事業

SEIWA

(単位：百万円)



	2020年3月期 第3四半期	2020年12月期	増減	増減率(%)
売上高	5,883	8,082	2,199	37.4
セグメント利益	△83	489	572	—
受注高	8,751	11,474	2,723	31.1
受注残高	11,060	12,028	967	8.8

売上高 期初の受注残高が多く、高速道路向け、一般道路向け共に大きく増加

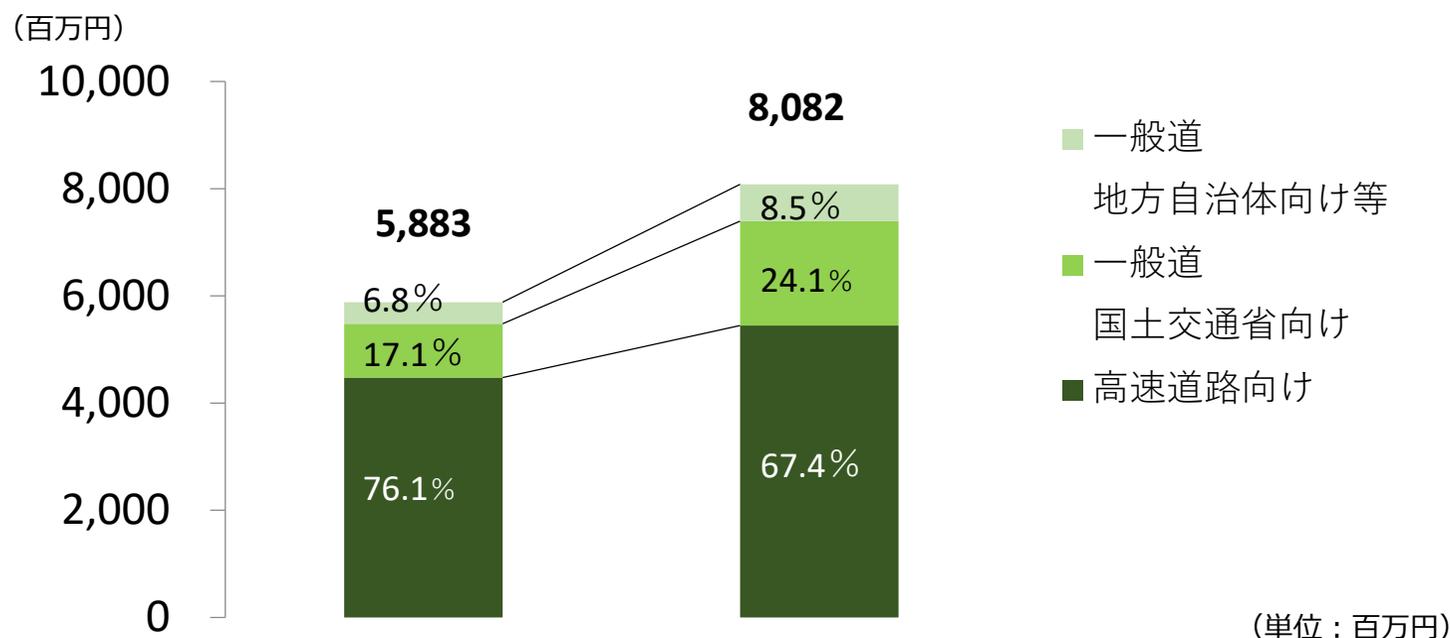
利益 大幅な増収による増益

受注残高 期中の受注が好調に推移し前年同一期間並み
新型コロナウイルス感染症による影響はなし

セグメント別の状況 ①情報機器事業

SEIWA

市場別売上高

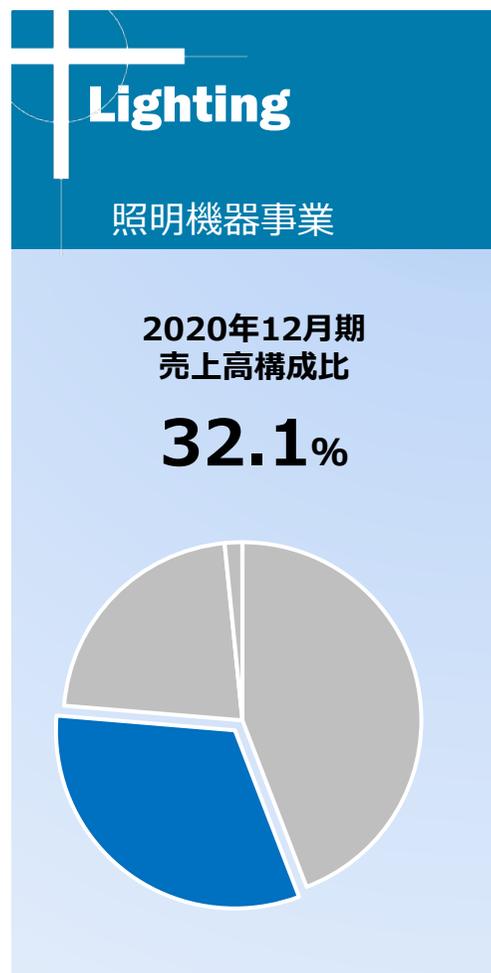


	2020年3月期 第3四半期	2020年12期	増減	増減率(%)
■ 高速道路向け	4,476	5,448	971	21.7
■ 一般道 国土交通省向け	1,004	1,949	944	94.1
■ 一般道 地方自治体向け等	402	685	282	70.2

セグメント別の状況 ②照明機器事業

SEIWA

(単位：百万円)



	2020年3月期 第3四半期	2020年12月期	増減	増減率(%)
売上高	5,205	5,882	677	13.0
セグメント利益	398	680	281	70.7
受注高	7,095	6,182	△913	△12.9
受注残高	2,565	1,745	△819	△31.9

売上高 LED照明器具は堅調、トンネル照明器具は増収

利益 トンネル照明器具などの増収による増益

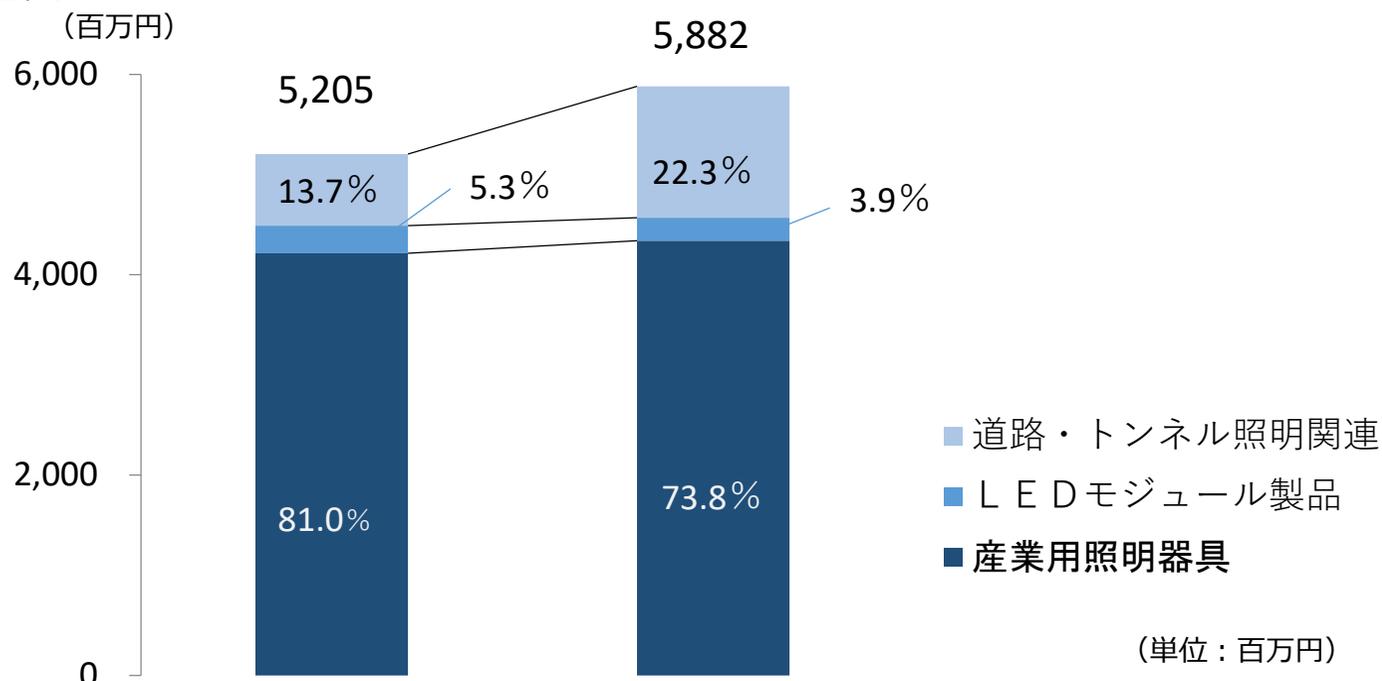
受注残高 LED照明器具、トンネル照明器具の受注が前年同一期間より減少したため、減少

新型コロナウイルス感染症による影響はなし

セグメント別の状況 ②照明機器事業

SEIWA

製品群別売上高

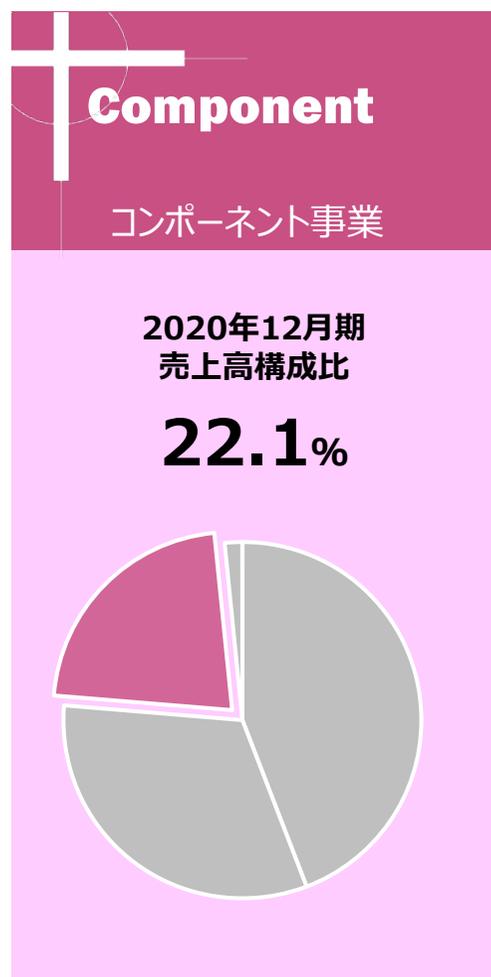


	2020年3月期 第3四半期	2020年12月期	増減	増減率(%)
■ 産業用照明器具	4,214	4,339	125	3.0
■ LEDモジュール製品	276	230	△45	△16.6
■ 道路・トンネル照明関連	715	1,312	597	83.6

セグメント別の状況 ③コンポーネント事業

SEIWA

(単位：百万円)



	2020年3月期 第3四半期	2020年12月期	増減	増減率(%)
売上高	4,040	4,040	0	0.0
セグメント利益	618	548	△70	△11.3
受注高	4,072	4,070	△1	0.0
受注残高	213	259	45	21.5

売上高 電磁波環境対策部品は増加、配管保護機材は前年並み、産業用配線保護機材は減少

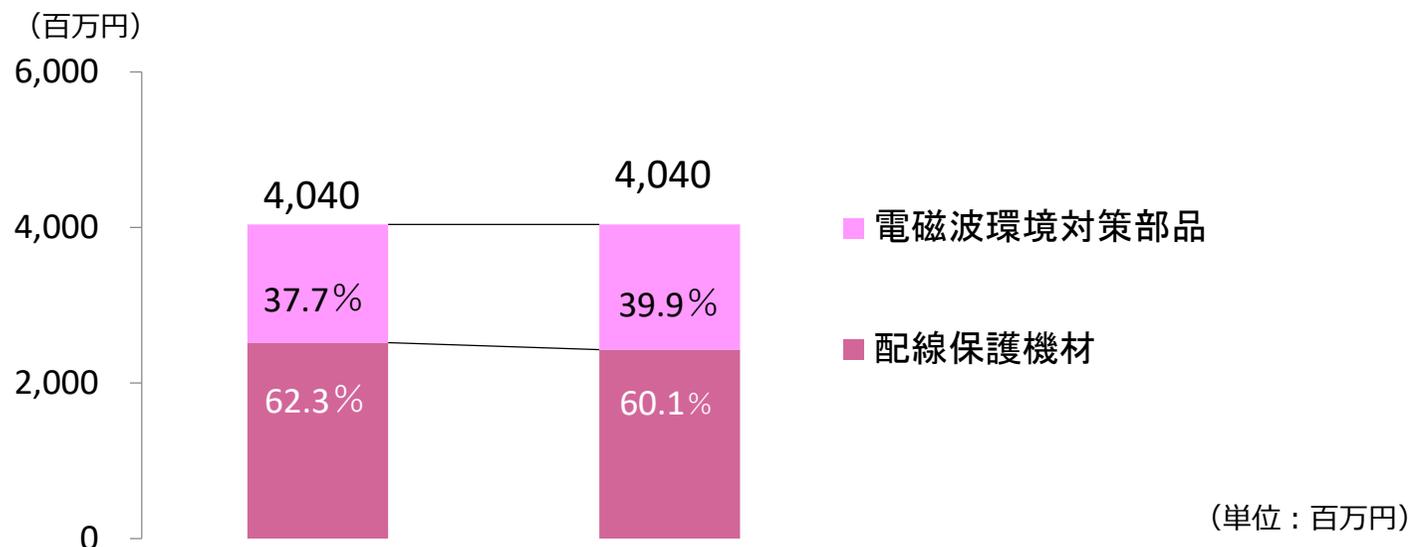
利益 減少

受注残高 期中の受注は前年同一期間並みだが、残高はやや増加
新型コロナウイルス感染症による影響あり

セグメント別の状況 ③コンポーネント事業

SEIWA

市場別売上高



	2020年3月期 第3四半期	2020年12月期	増減	増減率(%)
■ 配線保護機材	2,518	2,429	△89	△3.5
■ 電磁波環境対策部品	1,521	1,610	89	5.8

(単位：百万円)

	2020年3月期 期末	2020年12月期	増減
資産	29,923	27,391	△2,531
流動資産	22,711	19,676	△3,035
現金及び預金	3,198	2,178	△1,020
受取手形及び売掛金他	14,882	12,762	△2,119
固定資産	7,211	7,714	503
負債	18,730	15,340	△3,390
流動負債	16,906	13,970	△2,935
支払手形及び買掛金他	6,096	4,719	△1,377
短期・1年内返済予定長期借入金	8,075	7,114	△960
固定負債	1,824	1,369	△454
純資産	11,192	12,050	858
利益剰余金	3,016	3,431	415
非支配株主持分	25	23	△1
総資産	29,923	27,391	△2,531
<自己資本比率>	37.3%	43.9%	6.6PT

- (資産) 売上債権の回収により受取手形及び売掛金他が減少
- (負債) 仕入高の減少により仕入債務が減少。返済により短期借入金および長期借入金が減少
- (純資産) 親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が増加

※当期は9か月決算のため、対前期比較は記載しておりません。

- 営業キャッシュ・フロー 売上債権の減少等により11億円の獲得
- 投資キャッシュ・フロー 有形固定資産及び無形固定資産の取得等により4億円の使用
- 財務キャッシュ・フロー 短期借入金及び長期借入金の返済により17億円の使用

(単位：百万円)

	2020年12月期
営業キャッシュ・フロー	1,116
税金等調整前当期純利益	621
減価償却費	423
売上債権の増減額 (△は増加)	2,120
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 1,372
投資キャッシュ・フロー	△ 415
有形固定資産の取得による支出	△ 410
無形固定資産の取得による支出	△ 199
財務キャッシュ・フロー	△ 1,711
短期借入金の純増減額	△ 810
長期借入金の返済による支出	△ 723
現金及び現金同等物 期中増減額	△ 1,020
現金及び現金同等物 期末残高	1,960

2021年12月期業績見通し

SEIWA

- (売上高) 242億円 (利益) 営業利益 9億円 経常利益 8億5千万円
親会社株主に帰属する当期純利益 6億5千万円

次期（2021年1月1日から2021年12月31日の12か月間）は、当期の期間（2020年4月1日から2020年12月31日の9か月間）と異なるため、対前期比較情報は記載しておりません。

(単位：百万円)

	2021年12月期
売 上 高	24,200
情 報 機 器	11,000
照 明 機 器	7,250
コ ン ポ ー ネ ント	5,600
そ の 他	350
営 業 利 益	900
経 常 利 益	850
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	650

設備投資・研究開発等 (単位：百万円)

	2021年12月期
設備投資	700
減価償却費	600
研究開発費	500

売上高 110億円

国土強靱化やインフラ整備のための公共事業の継続が予想される
前年と同様に期初の受注残高が多い

受注残高	2018年3月期末	2019年3月期末	2020年3月期末	2020年12月期末
	4,231	8,192	8,635	12,028
	2018年3月期 第3四半期	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	2020年12月期末
	5,022	7,559	11,060	12,028

- ・ 受注済みの案件について、効率的な生産と施工
- ・ 新規受注の確保

<参考>

受注済みの工事進行基準物件のうち、2021年12月までに工期終了予定のもの

- ・ 西日本高速道路 関西東地区 道路交通情報設備更新工事（令和元年度）
- ・ 中日本高速道路 東京支社管内休憩施設案内表示設備工事
- ・ 国土交通省 東北地方整備局 尾肝要地区外非常警報設備工事 他

Lighting

照明機器事業



海外向け防爆形LED照明器具

WLZAA



WLZIA



売上高 72億50百万円

公共設備関連は情報機器事業と同様に公共事業の継続が予想されるため、トンネル照明器具の新製品を中心とした提案営業活動により受注の確保に努める

- ・ LEDトンネル照明器具の受注確保

<参考>

受注済みの工事進行基準物件のうち、2021年12月までに工期終了予定のもの

- ・ 国土交通省 東北地方整備局 尾肝要地区外非常警報設備工事 他

民間設備関連は新型コロナウイルス感染症による経済活動抑制の影響を受け予断を許さない状況が続くと予想されるが、LED照明器具の新製品の拡販と海外展開に努める

- ・ 光源の置き換え需要によるLED照明器具売上の確保
- ・ 海外向け防爆形LED灯器具フルラインアップ化による拡販

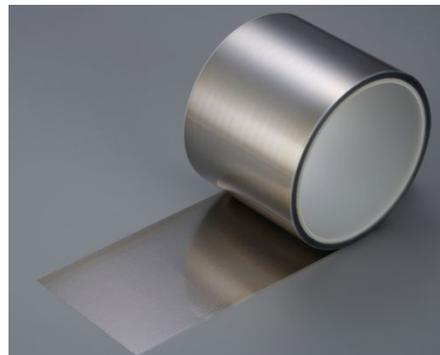
Component

コンポーネント事業

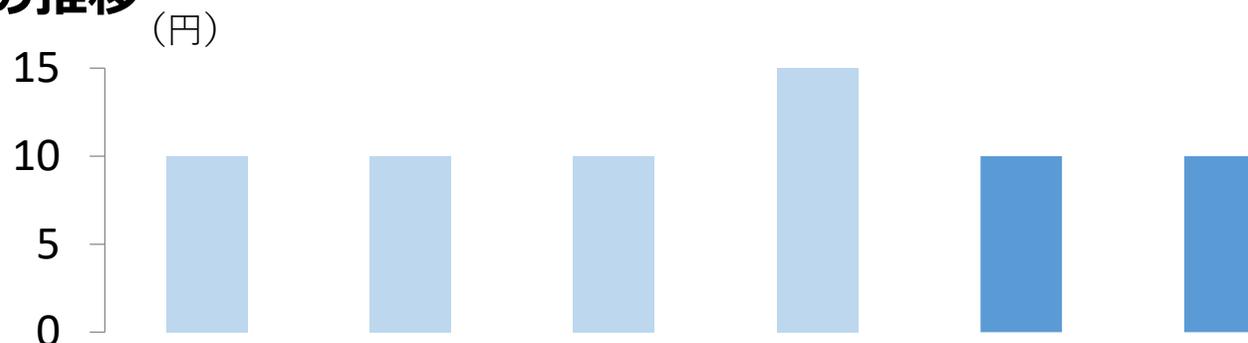
売上高 56億円

新製品の投入や新規事業の開拓により電磁波環境対策部品を中心に売り上げ増加に努める

- ・ 電磁波環境対策部品の需要拡大
- ・ 充実した測定設備の活用による新製品開発



■ 1株当たり配当の推移



決算年月	17/3	18/3	19/3	20/3	20/12	21/12(予)
1株当たり配当額 (円)	10	10	10	15	10	10
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

■ 配当方針

株主に対する安定配当の維持と将来の事業展開のための内部留保の充実を考慮して、毎事業年度における業績と財務状況等を総合的に勘案する

■ 当期の配当について

1株当たり10円

皇和電機株式会社

TEL: 0774-55-8181

FAX: 0774-58-2034

E-mail: info@seiwa.co.jp

<https://www.seiwa.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2021年3月5日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関するリスクや不確定要素により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

Information System

情報機器事業

- **主要製品** 情報表示システム（道路情報板等）、トンネル防災システム等
- **主要顧客** 国土交通省、高速道路会社各社(NEXCOなど) 地方自治体等
- **強み** 機器製造から工事、アフターメンテナンスまで一貫対応 ・技術ノウハウ



道路情報表示板



トンネル警報表示板
(トンネル防災システム)



LED式信号機

②照明機器事業 (公共設備関連)

SEIWA

Lighting

照明機器事業

- **主要製品** トンネル照明器具、道路照明器具、交通安全機材等
- **主要顧客** 国土交通省、高速道路会社各社(NEXCOなど) 地方自治体等
- **強み** 照明メーカーとしての技術ノウハウ 独自の配光技術や制御技術



トンネル照明



LED道路灯



LED歩道照明

② 照明機器事業 (民間設備関連)

SEIWA

Lighting

照明機器事業

- **主要製品** 防爆形の照明器具や防水・密閉形照明器具などの工場施設向けの照明器具等
- **主要顧客** 石油、化学、製薬、食品などの関係各社やプラントメーカー、電力会社など
- **強み** 特殊な環境に対応する機器開発の技術力
永年にわたる特殊照明の実績と信頼 (ブランド力)



防爆形LED灯器具
「LZBA」シリーズ

防爆形LED灯器具

海外の各種認証マーク



海外向け防爆形LED灯器具



照明用LEDモジュール製品

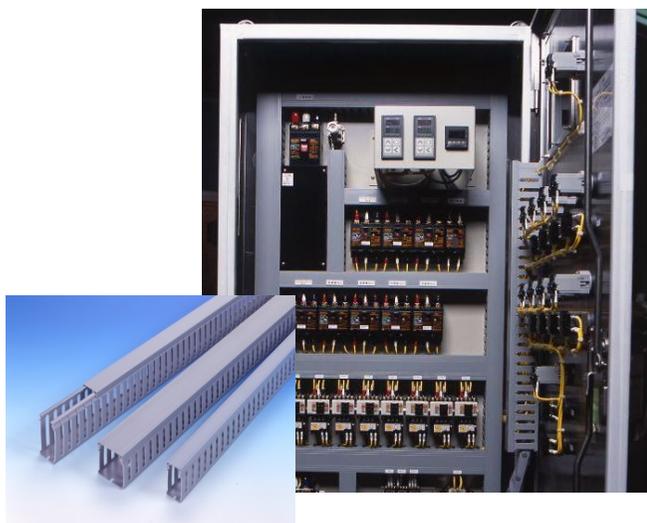
③コンポーネント事業 (配線保護機材)

SEIWA

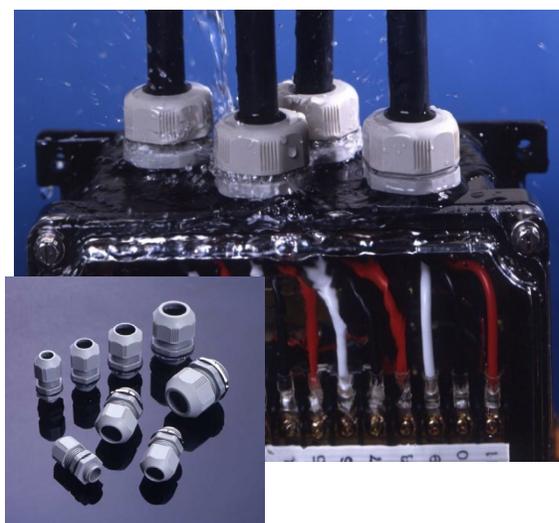
Component

コンポーネント事業

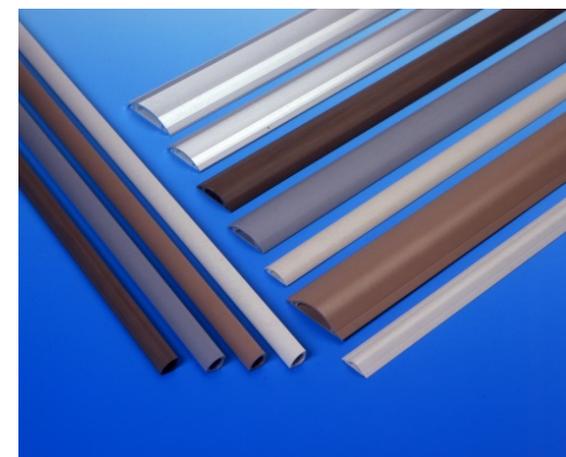
- **主要製品** 配線ダクト (カチングダクト)、ケーブルグランド (エスシーロック) 床・壁面配線用保護ダクト (UDプロテクタ) など
- **主要顧客** 配電盤メーカーや機械装置メーカー等
販売は主に電材商社・代理店等を通じてメーカーへ供給
- **強み** 高い品質と業界で信頼されるブランド力



カチングダクト



エスシーロック



UDプロテクタ

③コンポーネント事業 (電磁波環境対策部品)

SEIWA

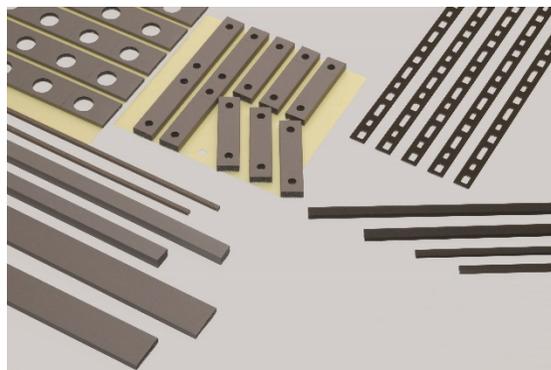
Component

コンポーネント事業

- **主要製品** フェライトコア、ガスケット、フィンガーなど
- **主要顧客** 自動車メーカー、家電・スマートフォンなどの電気製品、半導体向け製造装置などの製造メーカー等
販売は主に専門商社・代理店等を通じてメーカーへ供給
- **強み** 電波暗室を活用した自社製品の開発・性能評価
お客様のニーズに応えたソリューション営業
セミナーや出張相談で技術サポートを行う課題解決力



フェライトコア



ガスケット



電波暗室

電波暗室